

[成果情報名]長崎県型高設栽培におけるイチゴ「ゆめのか」の適正株間と収量

[要約]長崎県におけるイチゴ「ゆめのか」の高設栽培では株間20cm～25cmがよい。株間15cmでは、年内収量は増加するが、一果重が軽くなり、頂花房、第一次腋花房ともに収穫開始が遅れる。株間は30cmでは収量が低下する。

[キーワード]イチゴ、「ゆめのか」、高設栽培、株間、暗黒低温処理

[担当]長崎県農林技術開発センター農産園芸研究部門野菜研究室

[代表連絡先]電話 0957-26-3330

[分類]研究成果情報

[背景・ねらい]

長崎県ではイチゴ促成栽培において、農家所得の向上を目的に、「さちのか」から多収で輸送性に優れる「ゆめのか」への品種転換を図っている。これまでに農林技術開発センターでは安定的な早期出荷体制の確立に向け、暗黒低温処理による頂花房花芽分化早進化技術の開発を進めてきた。また、普及拡大を図るためには、本県の環境条件で「ゆめのか」に適した生産技術を構築する必要がある。

そこで栽培の基礎となる指標を策定するため、長崎県型高設栽培で暗黒低温処理した「ゆめのか」の定植に適する株間（栽植密度）を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 年内収量は株間 15cm で多くなるが、1月以降の収量は株間 15、20、25cm で同等となる。株間 30cm では年内収量、総収量とも少なくなる。平均一果重は株間 30cm が最も重く、15cm は最も軽くなる（図1）。
2. 株間 25cm および 30cm では頂花房の収穫開始が早くなり、頂花房と第一次腋花房間葉数も少なく、また、第一次腋花房の収穫開始が早くなる（表1）。
3. 障害果の発生には株間の違いによる明確な差は認められない（表2）。

[成果の活用面・留意点]

1. 「ゆめのか」の高設栽培における栽植密度の指標として活用できる。
2. 供試した苗は、高設雨よけ施設で育苗し、緩効性の固形肥料（N-200mg/株）を施用し、2013年が8月26日～9月11日まで、2014年が9月26日～9月9日まで15℃設定の冷蔵施設内で暗黒低温処理し、処理後は直射日光が当たらない施設内（常温）で馴化して長崎県型高設栽培施設に翌日定植した。
3. 定植後は年内の芽数を1芽に制限し、各花房当たり12～15果/株に着果制限した結果である。

[具体的データ]

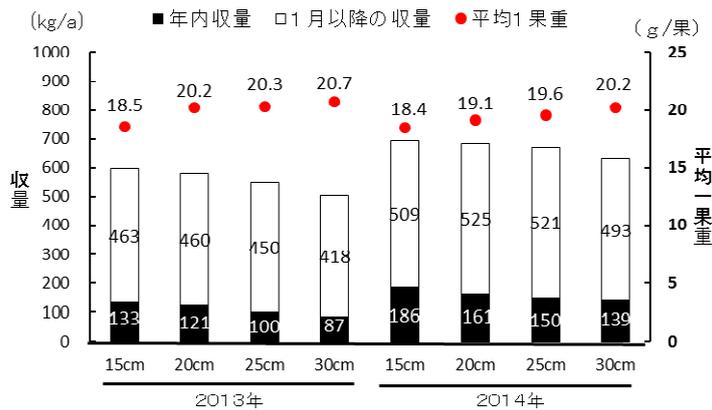


図1 「ゆめのか」の高設栽培における株間と収量及び平均1果重(n=20)

※収穫終了日は2013年が2014年5月14日、2014年が2015年5月15日

表1 「ゆめのか」の高設栽培における株間と花房収穫開始日及び花房間葉数

株間	栽植株数		頂花房		第1次腋花房 収穫開始日	頂花房～第1次 腋花房間葉数	
	(株/a)	比率(%)	開花日	収穫開始日			
2013年	15cm	933	133	10/20±2	11/24±4	3/12±3	5.5 a
	20cm	700	100	10/17±1	11/23±4	3/9 ±2	5.7 a
	25cm	560	80	10/18±1	11/18±2	3/3 ±2	5.0 ab
	30cm	467	67	10/19±2	11/20±3	2/26±2	4.6 b
2014年	15cm	933	133	10/23±3	11/23±5	2/16±5	5.3 a
	20cm	700	100	10/23±4	11/23±6	2/11±3	4.9 ab
	25cm	560	80	10/18±2	11/15±3	2/2 ±3	4.5 bc
	30cm	467	67	10/18±1	11/14±1	1/30±2	4.3 c

※栽植株数の比率は株間20cmを100とした場合の比率

Tukey法により同年、同列の異なる英文字間に5%水準で有意差あり、±は95%信頼区間の幅(n=20)

表2 「ゆめのか」の高設栽培における株間と障害果発生率

株間	先青+先白 果率(%)	不受精果率 (%)	裂皮果率 (%)	
2013年	15cm	2.8	3.0	2.4
	20cm	4.9	3.5	0.8
	25cm	2.7	3.2	0.5
	30cm	3.7	3.1	0.5
2014年	15cm	4.8	4.9	0.2
	20cm	7.5	3.2	0.2
	25cm	6.3	3.2	1.4
	30cm	6.1	4.1	0.4

(長崎県農林技術開発センター)

[その他]

研究担当者：前田衡、野田和也、松本尚之

発表論文等：前田ら(2016)九州農業研究発表会発表要旨、9